

【報告事項 1.】

平成 30 年度事業報告の件

本会は昭和 23（1948）年に創立され、平成 30（2018）年 12 月 3 日で 70 周年を迎えた。

これを記念して、平成 30 年度は記念誌の編纂や功績者表彰、祝賀会等、様々な記念事業を計画し、その準備に取り組むとともに、平成 31 年 3 月には記念講演会を開催した。

また、継続的に実施している公益事業として、調査研究事業、小動物地域獣医療の充実のための情報提供、狂犬病等の人と動物の共通感染症の都民生活への発生予防・まん延防止、学校飼育動物を通じて都民への動物愛護精神啓発と児童の健全育成の支援、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による畜産物に係る都民の食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した動物福祉の向上と、人と動物のより良い共生社会の構築、補助犬の保健衛生の向上及びその普及啓発活動を通じた補助犬法の周知と身体障がい者生活支援、災害時の動物救護対策の構築、小笠原諸島の希少種や繁殖地の自然環境保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療などの活動に取り組んだ。

公益社団法人東京都医師会との学術協定に基づき、高齢者の動物飼育支援をテーマとした合同シンポジウムを共同開催し、2020 年に開催される東京オリンピック（パラリンピック）については、「心のバリアフリー」をキーワードとし「人と動物がともに幸せに共生できる街・東京」を世界に示す機会として、オリンピック・パラリンピック選手をサポートする介助動物だけでなく、観戦者が同伴する介助動物や補助犬ユーザーを含めた支援対策として、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や、公益社団法人東京都医師会、公益財団法人日本補助犬協会等と連携し、補助犬ユーザーサポートのためのガイドライン作りに取り組んできた。

関連組織との連携事業として、令和元年度開催の FASAVA 東京大会を、FASAVA 本部との連携を図りつつ日本臨床獣医学フォーラム（JBVP）と共働して準備を進めてきた。

恒例となった小池東京都知事のヒアリングにおいては、本会が提唱する HATT 構想に関する提案とともに、学校飼育動物や野生鳥獣の遺体検案及び埋葬事業における児童・都民への公衆衛生対策や情操育成への寄与と充実化の必要性、自然環境保護とノネコ対策が官民協働で実施されている小笠原自然環境保護事業の重要性などを提言した。

さらには、事業推進と業界の活性化に関し、動物業界のみならず様々な分野・業種が一致協力した取り組みとなるよう、関係機関、本会賛助会員、東獣サポーターとのミーティングを行うなどして連携を図ってきた。

本会会員に対する福利厚生サービスについては、賛助会員 82 社による協力を得て、本会会員や家族、勤務スタッフも含めた会員特典の提供として、健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日には記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生の実践に積極的に取り組んだ。

I 会 務 報 告

1. 役職員等の人事

(1) 東京都庁関係：

- 村中志朗会長：東京都動物愛護管理審議会委員（H30年3月～R2年2月）
高橋恒彦（前理事）：東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員（H29年7月～R1年7月）
高橋恒彦（前理事）：東京都自然環境保全審議会委員（H29年7月～R1年6月）
佐藤克（危機管理室感染症対策セクション長）：東京都動物由来感染症検討会委員（H30年4月～H33年3月）
平井潤子事務局長：東京都動物愛護管理審議会小委員会委員（H30年10月～R2年2月）
平井潤子事務局長：東京都動物愛護推進協議会委員（H30年3月～R3年2月）

(2) 日本獣医師会関係：

- 村中志朗会長：日本獣医師会副会長（H29年7月～R1年6月）
天野芳二（前副会長）：東京地区代表理事（H29年7月～R1年6月）
天野芳二（前副会長）：動物感謝デー 実行委員（H28年7月～H30年6月）
天野芳二（前副会長）：職域総務部会総務委員（H29年7月～R1年6月）
天野芳二（前副会長）：家庭動物飼育環境健全化検討委員会（H29年7月～R1年6月）
中川清志業務執行理事：動物福祉・愛護部会 適正管理対策委員会小委員会
動物福祉愛護委員会委員（H29年7月～R1年6月）
学校動物飼育支援対策検討委員会（H29年7月～R1年6月）

(3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

- 小松泰史（前副会長）：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（H30年7月～R1年6月）

(4) オリンピック関係：

- 村中志朗会長：公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問（H26年6月～）

(5) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

- 村中志朗会長：東京地区代表理事（H30年4月～任期1年）
天野芳二（前副会長）：監事（H30年4月～任期1年）

(6) その他：

- 村中志朗会長：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会委員（H29年5月～）
高橋恒彦（前理事）：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事（H29年5月～H30年6月）
中川清志業務執行理事：おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会幹事（H30年6月～）

2. 本会の活動状況

(1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。

- ア. 定時総会：第7回 6/17
- イ. 定例理事会：第1回 5/18、第2回 7/2、第3回 9/14、第4回 12/11、第5回 3/8
- ウ. 臨時理事会：第1回 6/17
- エ. 監査会：第1回<H29 全期決算監査>5/9、第2回中間監査会 12/3
- オ. 会務運営会議：第1回 5/8、第2回 8/1、第3回 10/30、第4回 11/28、第5回 1/25
第6回 3/2
- カ. 地域職域合同支部長会：第1回 6/5(日獣会議室)
- キ. 支部会計説明会(個別相談会)：第1回 10/29、第2回 10/30
- ク. 倫理委員会：第1回 8/17
- ケ. 役員候補者選任委員会：第1回 5/28、第2回 8/20、第3回 10/18、第4回 3/1
- コ. 共生社会構築委員会：第1回 4/4、第2回 6/13、第3回 9/12、第4回 11/28、第5回 1/28
- サ. 産業動物委員会：第1回 1/17、第2回 3/15
- シ. 獣医公衆衛生委員会：第1回 8/7、第2回 3/19
- ス. 防災ブロック長会議：第1回 3/18
- セ. 広報委員会：第1回 5/10、第2回 6/11、第3回 8/9、第4回 9/12、第5回 10/26、
第6回 12/12、第7回 1/16、第8回 2/28
- ソ. 東京地区三学会対策委員会：第1回 6/4
- タ. 表彰審査委員会：第1回 5/15、第2回 8/2、第3回 12/6、第4回 3/11
- チ. 都委託医療事故防止・対策委員会：第1回 9/21、第2回 10/28、第3回 1/31
- ツ. 都補助事業運営委員会：第1回 7/23、第2回 8/7、第3回 10/1、第4回 11/27
- テ. 災害マニュアル検討委員会：第1回 1/18
- ト. 狂犬病予防対策WG：第1回 8/6、第2回 9/26、第3回 10/29、第4回 2/25
- ナ. 学校飼育動物対策委員会：第1回 9/7、第2回 10/12、第3回 11/2、第4回 2/15
- ニ. 70周年記念誌編集委員会：第1回 8/30、第2回 10/11、第3回 1/28
- ヌ. 関獣連理事会・幹事会：第1回 4/15、第2回 7/22、第3回 3/3
- ネ. 東獣賛助会員ミーティング 8/31、2/13
- ノ. 東獣サポーターミーティング 2/13
- ハ. FASAVA 関連会議 6/19、8/7、12/7、2/20、3/19

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

ア. 公益認定申請関係：

H29 年度事業報告及び決算報告の電子申請 (6/30)、H30 年度事業計画及び予算計画の電子申請 (3/31)、第2回定期立入検査 (1/16)

イ. 都庁関係：

災害時緊急対応に係る通信訓練の実施 (3/22)、H30 東京都動物愛護推進員委嘱

状交付式への出席（5/9）、東京都動物由来感染症検討会への委員派遣（7/19）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」診療券の贈呈（R1年度分 3/26）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」H30年度分感謝状の受領（5/30）、東京都動物愛護推進協議会への出席（3/19）、H30東京都委託獣医師育成対策事業の受託、H30東京都補助獣医公衆衛生学術振興事業の受託、H30東京都委託動物病院における動物由来感染症モニタリング事業受託、H30傷病野生鳥獣の保護治療等事業受託、H30ノネコ搬送に伴う感染症対策等事業受託、H30小学校動物飼育推進校事業受託、第60回東京都家畜保健衛生業績発表会審査員派遣 3/1、H31予算編成に関するヒアリングのための小池都知事との面談*（12/5.1/23）等

※小池都知事に対するプレゼンテーションについて

東京都動物愛護センター改築に関する事業提案や、学校飼育動物及び傷病野生鳥獣遺体の検案・埋葬、小笠原自然環境保護事業の充実等の提案を行った。

ウ．日獣関係：

第75回通常総会 6/22（明治記念館）出席、H30年度全国獣医師会事務事業推進会議 7/13（明治記念館）出席、第9回インターペット～人とペットの豊かな暮らしフェア～（3/28-3/31）ステージイベント「“心のバリアフリー”“東京オリンピック・パラリンピックに向けて”企画書・シナリオの作成、パネリスト出演交渉と手配など協力、日獣創立70周年記念式典 11/30（パレスホテル東京）出席、2018動物感謝デーin JAPAN WORLD Veterinary Day（二子玉川ライズ）12/1 参加及び動物救護所設置協力、H30年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 2/8～2/10（神奈川）参加、日獣委託小動物臨床講習会 2/3（都市センターホテル）開催

エ．関獣連関係：

理事会・学会幹事会：第1回（茨城・つくば）4/15、第2回（茨城・つくば）7/22、第3回（茨城・水戸）3/3、監査会 3/3、関獣連大会・学会 9/9（つくば国際会議場・茨城）に参加

関東地区獣医師会連合会における災害時相互協力に関する協定の検討などを実施
・H30大会スローガン：東京都獣医師会提案

「One Healthの理念に基づき人と動物の共通感染症について正しい知識を普及啓発しよう」

「人と動物との共生社会における「心のバリアフリー」を築いていこう」

・関獣連大会宣言

- 1) 社会のニーズに応え得る「良質かつ高度な獣医療供給体制」を確立する
- 2) 獣医師会活動の基盤となる会員数と組織率を増強し、狂犬病予防注射接種率の向上を図る
- 3) ペット同行避難、さらなる認知・理解を地域社会に根付かせる
- 4) 「One Health」の理念に基づき人と動物の共通感染症について正しい知識を普及啓発する
- 5) 人と動物との共生社会における「心のバリアフリー」を構築する

・H30 獣医事功績者推薦：

永井秀和(北)、鈴木彦一(足立)、森治子(多摩東)、大恵雅文(大田)、
筒井敏彦(日本獣医生命科学大学)、小野恵(東京都産業労働局)、
戸田成仁(かんらん)、大久保光行(共済)、岡崎留美(東京都公衆衛生)

・学術奨励賞受賞：

「猫腭特異的リパーゼにより診断した猫の腭炎 51 例における予後指標の検討」
(AC プラザ荻谷動物病院 井口七海先生) が同学会にて学術奨励賞を受賞

オ. 政令指定都市及び東京都獣医師会連絡協議会：

H30 年度は本会が開催担当として第 1 回を 6/10 に、第 2 回を 11/25 に品川プリンスホテルで開催し、意見交換と情報共有を行った。

カ. 他府県獣医師会：

埼玉県獣医師会第 69 回定時総会出席 6/7

新潟県獣医師会研修会講師派遣 9/11

山形県獣医師会市民向け研修会講師派遣 1/17

岡山県獣医師会「H30 年 7 月豪雨災害」に伴う情報提供など支援

キ. 中央畜産会：

H30 年度第 1 回中央打合会出席 4/13

H30 年度定時総会 6/21、地域自衛防疫取組促進対策事業全国推進会議 7/11、H30
馬飼養衛生管理特別対策事業全国推進会議 7/13、H30 年度経営指導技術向上事
業に係る管理責任者等研修会出席 8/28、H30 年度第 2 回中央打合会出席 1/30
H30 年度畜産会・畜産協会等関東ブロック研究会出席 10/18

ク. その他：

第 39 回関東しゃくなげ会総会出席 6/15

日本動物愛護協会創立 70 周年記念式典出席 5/20

第 60 回東京都家畜保健衛生業績発表会出席 3/1

日本動物病院協会 設立 40 周年記念年次大会記念行事出席 10/6

(3) 国際交流関係：

FASAVA2018 シンガポール大会 9/25-9/28 及び日本臨床獣医学フォーラム年次大会
2018 でのロビー活動 9/15-17 を実施。

(一社)FASAVA-TOKYO2019 理事会及び組織運営委員会を開催し、2019 東京大会の準備
を進めた。

3. 催事、学術集会等の実施状況

ア. 学会、講習会等：事業実施報告参照

イ. 支部学術講習会の計画等：※日獣生涯研修申請分

- ・多摩東支部・多摩西支部 学術講習会 5/13(日) 13:30～

「循環器アップデートセミナー」 講師：上地正実先生、千村収一先生

- ・町田支部 学術講習会 6/3(日) 13:30～

「循環器アップデートセミナー」 講師：上地正実先生、佐藤貴紀先生

- ・北多摩支部 学術講習会 11/9（金）20：00～
「最新の動物用義肢装具」 講師：島田旭緒先生
- ・北多摩支部 学術講習会 2/22（金）20：00～
「最新のアレルギー診療・正しい方法、間違った方法」 講師：増田健一先生
- ・武蔵野三鷹支部 学術講習会 3/15（金）20：00～
「咳の鑑別」 講師：藤田道郎先生

4. 本会が後援等を行ったイベント・キャンペーン・講演会

【後援】

- ・災害動物医療研究会 災害動物医療シンポジウム 2018『災害動物医療のこれまでとこれから』 4/8 （日本獣医生命科学大学）
- ・JBVP 「第20回日本臨床獣医学フォーラム年次大会 2018」 9/28-30
- ・獣医感染症研修会「獣医感染症シンポジウム 犬と猫の感染症をめぐる最新知見」 8/5（一条ホール）
- ・太平洋文化芸術協会「ハーナイアーフフ」 8/5 （大井町きゅりあん）
- ・テイ・アイ・コンソーシア「ドイツ動物保護施設の視察及びハノーファー獣医科大学におけるセミナー企画」 11/8-15
- ・NPO 法人アナイス「欧州の動物保護の現状と課題から学ぶ」～日本オリジナルの思想を創ろう～ 8/2
- ・JAHA 設立 40 周年記念年次大会「人とどうぶつの健康で幸せな未来を、動物病院と共に創造する」 10/6-7 （東京大学 弥生講堂）
- ・第20回全国学校飼育動物研究大会 8/25 （東京大学 弥生講堂）
- ・日本身体障害者補助犬学会「第11回学術大会」 10/6-7 （成田国際空港第2ターミナル）
- ・国際動物臨床病理学会 第18回東京学会 8/4-8（日本獣医生命科学大学）
- ・特非動物介在教育・療法学会 動物介在教育・療法学会第11回学術大会 11/9-11（東大学農学部）
- ・特定非営利活動法人小笠原自然環境研究所「あかぼっぼの日の集い」 2/10 母島
- ・小笠原ネコに関する連絡会議「小笠原ネコプロジェクト企画展「おがにゃんプロジェクトの今～ノネコひっこし大作戦～」 3/2～4/1（小笠原世界遺産センター）
- ・LAV 臨床研究会・日本女性獣医師の会共催講演会「小笠原における自然保護、ノネコ対策等について」 5/12（中野サンプラザ）
- ・認定特定非営利活動法人動物愛護社会科推進協会 第23回公開シンポジウム「aibo は人とペットの未来を変えるか？」 5/25（弥生講堂一条ホール）
- ・第162回 JAHA 国際セミナー「心疾患アップデート」 6/1-3（研究社英語センター）
- ・第163回 JAHA 国際セミナー「Dr. Janet が教える軟部外科」 8/28-30（研究社英語センター）
- ・第164回 JAHA 国際セミナー「難解な猫の整形外科疾患」 12/1-2（飯田橋レインボウビル）
- ・第165回 JAHA 国際セミナー「重症救急患者を診る時のコツ」 2/3-4（研究社英語センター）

- ・日本獣医麻酔外科学会「軟部外科ラウンド2018～Meet the Experts for Beginners」
12/16（麻布大学附属動物病院）
- ・日本獣医麻酔外科学会「動画で学ぶ！後肢整形外科疾患の診断と外科テクニック」
2/24（東京大学 弥生講堂 一条ホール）
- ・特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会 第23回公開シンポジウム「aiboは
人とペットの未来を変えるか？」5/25（東京大学 弥生講堂一条ホール）

【協賛】

- ・特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」キャンペーン
H30.4月-H31.3月 協賛
- ・一社）ペットフード協会・一社）日本ペット用品工業会・メッセフランクフルト ジ
ャパン(株)主催「第9回インターペット～人とペットの豊かな暮らしフェア～」2019
3/28-3/31
- ・第30回世界牛病学会 2018 札幌組織委員会 第30回世界牛病 2018 札幌 2018
8/28-9/1 協賛（札幌コンベンションセンター）

【協力】

- ・日本獣医生命科学大学研究事業「加齢性動物疾病の先制医療拠点の構築プロ
ジェクト」
- ・特定非営利活動法人獣医系大学間獣医学教育支援機構

5. 表彰等

東獣`18 イヤーズカンファレンスにおいて、以下の20名が東京都獣医師会会長表彰
を受賞された。

A会員

赤塚 正明（江戸川支部）	猪狩百合子（多摩西支部）
山本 博史（八王子支部）	柴田 茂樹（品川支部）
田中 直久（北多摩支部）	谷澤 浩二（墨田支部）
亀井 俊一（足立支部）	安藤知恵子（大田支部）
西畠 和夫（中野支部）	柳原 義介（北多摩支部）
横尾 清文（墨田支部）	

B会員

荻谷 和廣（江東支部）	神門えり子（練馬支部）
渡辺慶一郎（檜欖支部）	石川 俊（檜欖支部）
佐伯 英治（檜欖支部）	長谷川充弘（中央競馬会支部）
坂田 雅史（東京都産業労働局支部）	大場 誠一（動物薬事支部）
岩田 勝雄（共済支部）	

6. その他

(1) 組織率の向上

- 1) 東獣`18 イヤーズカンファレンス (10/28・日) をホテルルポール麹町にて開催するとともに懇親会を設け、執行部と会員、賛助会員とが近しく意見交換を行う場を提供し組織充実に努めた。
- 2) 会員へのタイムリーな情報提供と情報収集のツールとして、東獣会員専用サイトを構築し、各種割引制度、福利厚生制度等会員特典情報を提供した。
- 3) 敬老の日を祝して、対象会員に対してお祝い品 (Quo カード) を贈呈した。
- 4) 本会案内パンフレットをもって広報すると共に、他の関連組織への訪問や本会が開催する講習会等への参加を勧誘して加入促進に努めた。

(2) その他事業

- 1) 「第9回インターペット〜人とペットの豊かな暮らしフェア〜」企画「犬猫ペット健康相談所」、日本獣医師会企画「キッズ獣医師体験ブース」と、ジャパンケネルクラブ「FCI ジャパンインターナショナルドッグショー2019」企画の「愛犬健康相談所」への獣医師派遣の調整を行った。
- 2) 本会作成の印刷物 (カレンダー・証明書等) を頒布した。
また、会員の利便性を考慮し、予防接種証明書など様式のインターネット販売をおこなった。
- 3) 保険加入斡旋などの事務手続きによる収入を得た。
- 4) 賛助会員 (テイ・アイ・コンソーシア) とのコラボ企画として「ドイツ・オランダ視察ツアー」11/8-15 を本会の監修により実施した。

この企画は、ネット上の巷説ではなく実際に現地を訪問し、動物保護施設、業界関係者、国や自治体、一般市民など、幅広くヒアリングを行うことで、実情の理解に近づき、日本が抱える問題点や、良い点、目指すべき方向性について検討の一助となることを目的とした。結果、様々な業界からの参加者 28 名が、動物関連施設 (ペットショップや動物保護施設など) を訪問し、帰国後に開催した報告会では、ツアー参加者 9 名からそれぞれの視点と解釈による報告が行われ、ツアー参加者、報告会参加者ともに大変有意義な企画であったとの評価を得た。

【報告会】

日 時：平成 31 年 2 月 13 日 (水) 17:00~19:30

場 所：京王プラザホテル (44F ハーモニー)

出席者： 本会関係者：会員 16 名、賛助会員 54 名、サポーター 3 名、他 2 名
一般申込:12 名

ツアー参加者：15 名、議員：16 名

合計 118 名

(3) 会員名簿の作成

隔年で作成している H30 年度版本会会員名簿を作成し、東獣ジャーナル 10 月号に同封し会員、賛助会員に配布した。

7. 本会組織の会員状況

平成 30 年度末会員数は、A 会員名 655 名、B 会員 471 名、計 1,126 名である。

年度内の入会は 33 名、退会 69 名（逝去 12 名含）、長寿会員 59 名のうち、会費免除高齢会員 58 名であった。（会員の内訳は表参照）

地域	A 会員			B 会員			計		
支部	H30	H29	差異	H30	H29	差異	H30	H29	差異
中 央	27	24	3	13	14	△ 1	40	38	2
文 京	15	17	△ 2	6	6	0	21	23	△ 2
新 宿	16	17	△ 1	5	5	0	21	22	△ 1
中 野	18	19	△ 1	1	1	0	19	20	△ 1
杉 並	37	38	△ 1	12	13	△ 1	49	51	△ 2
世田谷	59	60	△ 1	39	36	3	98	96	2
渋谷	8	9	△ 1	2	2	0	10	11	△ 1
目 黒	27	27	0	6	6	0	33	33	0
大 田	45	45	0	17	18	△ 1	62	63	△ 1
品 川	21	21	0	5	6	△ 1	26	27	△ 1
勝 島	12	13	△ 1	0	0	0	12	13	△ 1
江 東	19	20	△ 1	6	5	1	25	25	0
墨 田	18	19	△ 1	1	1	0	19	20	△ 1
城 北	20	20	0	1	1	0	21	21	0
葛 飾	21	20	1	1	1	0	22	21	1
江戸川	24	23	1	8	9	△ 1	32	32	0
足 立	20	21	△ 1	0	0	0	20	21	△ 1
北	16	17	△ 1	0	0	0	16	17	△ 1
豊 島	14	15	△ 1	1	1	0	15	16	△ 1
板 橋	18	19	△ 1	3	4	△ 1	21	23	△ 2
練 馬	35	36	△ 1	8	13	△ 5	43	49	△ 6
武蔵野三鷹	15	16	△ 1	2	2	0	17	18	△ 1
北多摩	34	34	0	4	5	△ 1	38	39	△ 1
多摩東	24	23	1	5	4	1	29	27	2
南多摩	15	16	△ 1	4	4	0	19	20	△ 1
八王子	20	21	△ 1	1	1	0	21	22	△ 1
町 田	18	20	△ 2	0	0	0	18	20	△ 2
多摩西	39	41	△ 2	4	3	1	43	44	△ 1
小 計	655	671	△16	155	161	△ 6	810	832	△22

職域	B 会員		
支部	H30	H29	差異
農水省	3	3	0
動薬検	0	0	0
都産労	7	8	△ 1
都公衆衛生	30	31	△ 1
東 大	15	16	△ 1
農工大	16	17	△ 1
日獣大	32	35	△ 3
生物医学	24	26	△ 2
日生研	7	7	0
松 研	2	2	0
中央競馬	3	3	0
共済	10	11	△ 1
動物薬事	36	39	△ 3
かんらん	131	132	△ 1
小 計	316	330	△ 14
B 会員計	471	491	△ 20

東京都獣医師会総会員数			
	H30	H29	差異
総計	1,126	1,162	△ 36

H30 会員数	A 会員	B 会員
	655	471

Ⅱ 事業実施報告

I. 公益目的事業

1. 都民公開シンポジウム開催事業

東京都医師会と東京都獣医師会との学術協定締結に伴い、「健康寿命の延伸を地域包括ケアの中でどのように達成して行くか」をテーマに、連携シンポジウム（下記詳細）を開催した。

日 時：平成 30 年 12 月 15 日（土） 15:00～17:30

場 所：東京都医師会館 2 階ホール（千代田区神田駿河台 2-5）

参加人数：104名

第 1 演者：西田伸一先生（東京都医師会理事）

「地域包括ケアシステムにおける獣医科・医科連携」

第 2 演者：越村義雄氏（一社）人とペットの幸せ創造協会・一社）ペットフード協会名誉会長）

「ペットと暮らす幸せが健康につながる！」

特別講演：武見敬三先生（参議院議員）

「自立して生き生きと暮らせる健康長寿社会を目指して」

パネルディスカッション

2. 狂犬病予防対策推進事業

昨年に引き続き、狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。H30年度においては87,185頭の実績となった。（前年比▲3.2%、平成25年度から19,238頭減少）

また、狂犬病予防に関する知識の普及・啓発事業を推進し、狂犬病の発生及びまん延、拡大の阻止を図り、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

2-ア. 都民に対する狂犬病に関しての情報提供と周知；

H26 年度に本会が制作した動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性に対する啓発活動を継続実施した。

都内での狂犬病発生を想定した、H30 年度狂犬病発生時対応訓練（東京都主催）に参加した。

日 時：平成30年12月6日（木） 14:00～17:00

場 所：東京都動物愛護相談センター会議室

内 容：狂犬病発生時対応訓練

参加者：行政

本会世田谷支部 支部長・狂犬病担当者

品川支部 会計責任者・渋谷支部支部長・目黒支部狂犬病担当者

本部

2ーイ．犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において狂犬病に関するポスターを活用して犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。

2ーウ．獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病に対する意識向上、狂犬病の臨床診断能力の向上及び狂犬病に関連する法規の再確認を行うため、獣医師を対象に講習会並びに狂犬病支部担当者会議を開催した。

狂犬病支部担当者会議では、屋外集合注射の今後について、各地域での契約状況について、狂犬病予防注射事業賠償契約について、及び予防接種猶予に係わる診断書発行についてなど、様々な問題点について意見交換を行い、情報共有と意思統一に努めた。

H30年度日本獣医師会小動物臨床講習会においては、本会支部に対し狂犬病予防接種に関する疑問点について事前にアンケート調査を実施し、そこで抽出した疑問点をテーマとしたディスカッション形式とした。

このディスカッションでは疑問として多くあげられていた、予防接種猶予や副反応に関する見解も示され、これらの情報を各々が持ち帰ることで、各地域における狂犬病予防接種事業の推進の一助となることが期待できる。

《平成30年度獣医日本獣医師会小動物臨床講習会》

日 時：平成31年2月3日（日）14：00～17:00

会 場：都市センターホテル 706会議室

テーマ：「狂犬病予防注射の素朴な疑問

～狂犬病予防注射事業改善アンケートを基に～」

講 師：狂犬病予防対策ワーキンググループ

野 村 道 之（北多摩支部・委員長）

瀬戸口 健 二（中央支部・副委員長）

佐 藤 克（板橋支部）

宮 田 容 太（葛飾支部）

中 川 清 志（担当業務執行理事）

参加者：本会会員：52名

都内臨床獣医師（非会員）：3名

都内行政：5名

地方臨床獣医師：11名

地方行政：4名

合計75名

2 エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

27の地域支部において、狂犬病予防定期集合注射の安定的な実施及び注射済票交付を実施し、狂犬病予防注射の接種率向上に努めるとともに、法による犬の登録の受付を代行するなどして、飼い犬の登録率を向上させるよう努めた。

本部においては、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」への加入をとりまとめ、支部による狂犬病予防定期集合注射事業の実施を補佐した。

また、狂犬病予防注射離島対策事業として、島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

2 オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

平成30年度は実施していない。

3. 災害時の動物救護支援に関する事業

本会内には災害、人畜共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。

各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

3 ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的かつ速やかに実施するために、本部及び、支部において、都及び市区町村で開催する防災担当者会議等に積極的に参加し、ガイドラインやマニュアルの整備など、動物救護の仕組み作りの検討に協力した。

また、平成30年度東京都・中央区・港区総合防災訓練（中央区立浜町公園 9/2）に地元の中央支部とともに参加し、ブースにおける防災用品やパネル展示、印刷物の配布、マイクロチップ挿入のデモンストレーション等により都民に対して、動物を飼育する上での災害対策についての知識の普及啓発を行った。

環境省が実施した広域支援図上訓練中部・関東地区（静岡 1/18）に参加し、南海トラフ三連動地震のような広域大規模災害発生時の体制整備の検討を行った。

平時においては、有事を想定して、本会独自の安否確認システムにより9月1日と3月11日に会員の安否確認訓練を実施した。

- ・9月1日は、PM12:00に安否確認システム登録会員604件に発報、272件の回答があり、未返信198件、不達134件であった。回答があった272件のうち65%にあたる177件は発報から1時間以内に回答を得た。
- ・3月11日は、AM11:00に安否確認システム登録会員598件に発報、235件の回答があり、未返信224件、不達139件であった。回答があった235件のうち52%にあたる123件は発報から1時間以内に回答を得た。

この安否確認メール未達対策のため毎月15日にテスト送信を実施し、問題解決を図った。

防災ブロック長会議を開催し、情報共有を図るほか、世田谷支部からの要望により、防災担当者を対象とした勉強会を実施した。

災害対策の普及啓発ツールとして、「災害対策啓発パネル（熊本地震に学ぶ）」や講演用スライドを制作し、地域支部に提供した。

防災セクションより、以下の情報について会員宛て周知し支援協力を仰いだ。

- ・西日本豪雨

H30年7/12付 支部長・賛助会員へ支援金募集について連絡。

8月末時点で27件、計1,411,064円の入金があり、本会からの支援金と合わせて合計1,911,064円を日本獣医師会を通じて被災地獣医師会へ寄付した。

- ・台風21号及び平成30年北海道胆振東部地震

H30年9/6付 地域支部長を通じ会員病院に対し、被災動物の受入れ可否について連絡。

H30年9/7付 東京都獣医師会Facebookにて一時預かり支援について広報。

9/11時点で、55病院 合計184頭の受入れ可能との回答を得た。

- ・平成30年北海道胆振東部地震

H30年11/2付 支部長・賛助会員へ支援金募集について連絡。

2月末時点で11件、計272,890円の入金があり、本会からの支援金と合わせて合計372,890円を日本獣医師会を通じて被災地獣医師会へ寄付した。

3-イ. 危機管理・感染症対策事業；

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ情報を本会ウェブサイトに掲載し、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に寄与した。

東京都補助獣医公衆衛生学術振興事業により、H19年度本会作成の「人と動物の共通感染症ミニ知識ガイド」を改訂し、本会ホームページ上に「人と動物の共通感染症ガイド」を設けた。

感染症対策セクションより以下の情報について支部長を経由した連絡、及び本会SNS情報伝達ツール登録者へ周知し注意喚起を図った。

- ・犬のレプトスピラ症の発生について

6/21付支部長連絡

6/6に、昭島市において犬のレプトスピラ症の発生が確認され、家畜伝染病予防法（法第4条第1項）に基づく届け出が行われた件について

11/29付支部長連絡

武蔵野市において犬のレプトスピラ症の発生が確認された件について

- ・腸管病原性大腸菌 0115（EPEC）について

7/25 付支部長連絡

5/25 に、東京都委託事業「動物由来感染症モニタリング調査事業」のサンプリング検査において、多摩地域で飼育されている犬からが検出された件について

- ・ネコ汎白血球減少症の集団発生について

8/3 付支部長連絡

立川市にある猫カフェにおいて、複数の猫に感染が確認された（毎日新聞 ORICON NEWS より）件について

- ・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の猫からの人感染について

10/29 付支部長連絡

宮崎県で発生した、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）発症猫を診察した獣医師が SFTS を発症した事例について

4. 獣医公衆衛生対策推進事業

4 - ア. 動物由来感染症モニタリング事業；

東京都の委託を受け、人と動物の共通感染症の定点把握を継続実施した。以下に挙げる疾患については、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取し調査した。①皮膚糸状菌症 ②疥癬 ③回虫症 ④ジアルジア症 ⑤瓜実条虫症 ⑥犬糸状虫症 ⑦犬ブルセラ症（犬のみ）⑧トキソプラズマ症（猫のみ）

また、人と動物の共通感染症として重要な以下の細菌性腸炎の原因菌についても、消化器症状を呈し来院したイヌ、ネコを対象とし会員病院6施設の協力を得て、調査した。①黄色ブドウ球菌 ②大腸菌 ③サルモネラ菌 ④クレブシエラ・オキシトカ ⑤エルシニア・エンテロコリチカ ⑥赤痢菌 ⑦ビブリオ・ミミカス ⑧腸炎ビブリオ ⑨バシラス・セレウス ⑩カンピロバクター ⑪大腸菌O抗原

いずれの調査においても、動物の所有者に対しては十分な説明及び同意を行い検査を実施した。細菌性腸炎の調査実施に当たっては富士フィルムモノリス株式会社の協力を得た。

4 - イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業；

所轄官庁から発信される人と動物の共通感染症及び食の安全対策に関わる公示・通達等を、本会ウェブサイト、東獣ジャーナルで広報した。

また、平成 20 年 3 月に本会で編集・発行した「人と動物の共通感染症ミニ知識ガイド」(会員獣医師に無料配布)の内容をベースに、本年度新たに「人と動物の共通感染症ガイドライン Web 版」を作成、公開した。

Web 版では人と動物の共通感染症 39 種類の概要を平易に解説するとともに、他の有益なサイトへのリンクやスマートフォンでも閲覧可能にするなど利便性の向上を図った。

5. 学校動物飼育対策推進事業

小学校学習指導要領に則り実施される教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、及び動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

５－ア．学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学習指導要領解説にあるように、児童が学校飼育動物に心を寄せ、愛着を持って接するとともに、生命あるものとして世話することができる飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を支部委託事業として都内全域において行った。

支部を通じて依頼のあった学校及び教育委員会に対し本会から講師を派遣した。

講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導や児童や教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。

また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる支部担当者間の情報の交換と提供に努めた。

５－イ．学校獣医師養成講座；

全国の担当者と意見交換を行い、知識などの向上のため日本獣医師会の動物福祉・愛護部会 個別委員会学校動物飼育支援対策検討委員会及び動物福祉・愛護部会 学校動物飼育支援対策検討委員会に参加した。

本会会員向け「学校飼育動物 獣医師養成講座」の実施にむけ、検討を行い、H31年度において以下の通り実施することとした。

【内 容】

開催日：第１回 ７月 21 日（日）、第２回 11 月 10 日（日）、第３回 ２月 23 日（日）

場 所：アニコムホールディングス株式会社 会議室

対象者：獣医師（非会員も参加可）

プログラム：各回 15：00～17：00 総論 50 分、各論 50 分、意見交換会 30 分

講師：第１回目 総論 渋谷一典（文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官）

「学校飼育動物がもたらす教育的価値と新学習指導要領」

各論 田向健一（大田支部）

「ウサギについて」

第２回目 総論 庭野正和（武蔵野大学客員教授、全国学校飼育動物研究会副会長）

「学校飼育動物活動に期待される効果」

各論 小嶋篤史（世田谷支部）

「チャボについて」

第３回目 総論 茂呂美恵子（大田区立田園調布小学校長）

「小学校で動物を飼うことの意味と教育方針」

各論 田向健一（大田支部）

「モルモットについて」

5ーウ．動物飼育作文コンクール；

支部事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行い、その優秀作品を表彰した。

日 時：平成 30 年 9 月 25 日（火） 品川区第三庁舎 6 階講堂

テーマ：第 37 回動物愛護作文コンクール(品川支部主催)

内 容：応募点数 148

小学 5 年生 入選 10 点 佳作 10 点

小学 6 年生 入選 10 点 佳作 10 点

表彰者：40 名 出席者：33 名

本会役員出席：村中会長

5ーエ．小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、会員獣医師 20 名を動員し、都内 4 つの推進校において①衛生管理指導 ②体験活動事業 ③研修会事業 ④動物由来感染症発生時対応事業 ⑤埋葬事業を実施した。また、事業の適正な推進と発展のため、課題の抽出や今後の対策の検討を行うとともに、活動報告会を開催し次年度事業への礎とした。

5ーオ．学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、306 件の学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院で検案実施後、一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき適切な埋葬をおこなった。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校及び児童が身をもって生命の尊さを感じる事ができるよう支援した。

6．動物愛護啓発事業

6ーア．催事における啓発事業；

公益社団法人東京都獣医師会世田谷支部と世田谷区が主催した「世田谷区動物フェスティバル」（平成 30 年 11 月 4 日(日)）にブース出展し、災害時の動物救援、同行避難活動事業、小笠原自然環境保護事業などについてパネル展示やパンフレットの配布を行った。

「動物のいのち救済基金」における高齢者の動物飼育に対する支援事業として、「あなたとペット・合わせて何歳？」と題し、飼い主とペットの年齢が合わせて 80 歳以上になられる方を対象に、3,000 円分の特別診療券を世田谷区動物フェスティバル会場で配布した。

また、高齢者が継続して動物を飼育できる環境整備に協力すべく、「高齢者の動物飼育支援システム（仮称：高齢飼育者サポートネット）」を構築することや、長寿犬・長寿猫の表彰について検討を進めた。

「第 4 回世田谷フラ・フェスティバル」の開催に合わせ、平成 31 年 1 月 18 日(土)、1 月 19 日(日)の両日、区民会館においてブースイベントを実施し、共生社会構築委員

会委員、賛助会員他の協力を得て、動物愛護事業「動物のいのち救済基金」の募金活動等を行ない、募金については、34,907 円と物販 12,500 円であった。

H30 年度『動物のいのち救済基金』募金総額は 1,875,258 円（総計 111 件）となった。

日本獣医師会が主催する 2018 動物感謝デー 12 月 1 日（土）（二子玉川ライズ）に参加し、小笠原自然環境保護活動に関連する啓発活動、災害時の動物救援、同行避難活動事業などについてブース出展を行った。

また、近隣開業会員の協力を得てイベントに同伴されるペットのための動物救護所を担当した。

動物のいのち救済基金サポーターミーティングを実施し、本会が実施している活動報告や、動物共生に関わる情報提供を行った。

適正飼育支援の一環として 15 歳以上の犬猫を対象とした長寿犬・長寿猫表彰を企画し、会員に募ったところ、115 病院、2344 件の申し込みがあった。

表彰状受賞者による SNS 上への投稿が見られた他、飼い主から表彰に関する問い合わせもあり、適正飼養の啓発への一定の効果が得られた。

『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として作成したペット防災袋とペット防災 BOOK を、本部あるいは支部の普及啓発イベントや防災訓練などでの販売する他、インターネットによる販売を開始した結果、防災袋 34 セット、防災 BOOK 201 冊を頒布することができた。

6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業；

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、飼い猫や飼い主がいない猫の不妊去勢手術を実施した。

7. 医療廃棄物等適正処理活動事業

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会」2/23（都民ホール）開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

8. 身体障がい者支援活動事業

東京都福祉保健局と協力して身体障がい者を支援する目的で、動物診療施設等の協力を得て「ひかりの箱」募金活動を推進した。

東京都福祉保健局を介して、身体障がい者補助犬使用者に対し、身体障がい者補助犬 1 頭につき 3 万円の診療券 130 頭分の交付を行い、補助犬の健康管理等の診察支援を行った。

また、盲導犬、聴導犬、介助犬の増加に伴い利用者数が増加したことから、令和元

年度からは1頭につき2万円の診療券150頭分の交付とした。

平成30年度（H31年3/31現在）では、約190万円の募金額を得て、身体障がい者補助犬診療費の一部に充当した。

9. 夜間診療活動及びマネジメント事業

夜間に状態が急変するなどしたペットの飼育者が本会ホームページの掲載情報により、電話相談や受診ができるよう、夜間診療対象動物病院の情報掲載と電話アナウンスによる飼育支援を行った。

10. 小笠原自然環境保護活動事業

小笠原諸島は、現地に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行ってきた。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは40羽だった生息数が少なくとも500羽を超えたことが確認されており、順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認された。

10ーア. 保護されたノネコの保護活動事業；

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した（H30年度85頭 累計875頭）。

新規受け入れ病院を確保するため、本事業の広報に努め、小笠原自然保護官事務所からの小笠原ネコプロジェクトに関するメーリングリスト加入依頼に協力するとともに、島内譲渡促進やペット条例の制定に向けての検討に協力した。

10ーイ. 小笠原諸島現地視察活動事業；

本年度は実施していない。

10ーウ. シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業；

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。

千代田区が主催した「ちよだ猫まつり2019」がH31年2月16日（土）、2月17日（日）の両日に開催され、ブース出展にて本会活動の有用性及び重要性の広報を行った。

また、本会70周年記念事業の一環として、H31年3月24日（日）京王プラザホテルにて、「小笠原・人・猫・自然・地域社会 ～人と猫と自然が調和する～」が開催され、これまでの活動経緯と成果報告を実施し、好評を得た。

開催日：平成31年3月24日（日）

場 所：京王プラザホテル

展 示 アリア（本館44階）

講演会 ハーモニー（本館 44 階）

参加人数 92 名

内 容：

司 会 小林元郎（東京都獣医師会副会長）

登壇者 小笠原自然文化研究所副理事長 鈴木 創

「小笠原の自然環境の紹介と猫の捕獲から、ML を活用した照会による
受入病院の決定、移送」

モフ動物病院 動物看護師 伊藤有未

「猫の受入れから譲渡までの過程と飼い主の声を担当者から紹介」

東京都獣医師会業務執行理事 中川清志

「事業の経緯と成果報告 さまざまな組織の協働による成果」

小笠原村環境課 課長 岡島一徳

「小笠原村の飼いネコの適正飼養の推進について」

神奈川大学法学部 准教授 諸坂佐利

「日本初のネコ条例制定の島ー小笠原の次なる挑戦 ～ネコ条例から
ペット条例へ」

小笠原村 副村長 渋谷正昭

「今後の展望と課題」

東京都獣医師会会長 村中志朗

「人と動物とが幸せに共生する社会を目指して」

11. 傷病野生鳥獣保護活動事業

東京都の委託を受け、都民によって持ち込まれた傷病野生鳥獣を救護、施療活動を実施し、当該治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

これらの件数は 357 件であった。一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等 67 件については、動物の命の大切さから、保護、治療を本会からの助成により実施した。

また、治療後死亡した 83 件については、会員病院での検案及び一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との協定に基づき実施された埋葬に関し、本会から助成し実施した。

さらに、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

12. 学会・講習会活動事業

獣医師として最新の専門技術と知識や情報を得ることで研鑽を払い、常に適切なる獣医療の提供に努めていかなければならないことから、次の学会、講習会、研究検討活動等を実施した。本年度は、獣医師育成対策事業（都委託）において小動物獣医療に関わる獣医療トラブルの未然防止と適切な獣医療の提供、臨床現場における危機管理対応能力の向上等を目的とした講習会を行った。獣医公衆衛生学術講習会（都補助）においては、「One Health, 共通感染症のコミュニケーターとしての獣医師」を開催した。

下記の内（４）、（５）の講習会については、東獣`18 イヤーズカンファレンスと題して、同時開催の形式をとった。

（１）三学会活動；

関東・東京地区合同獣医師会大会・学会活動を通じ、技術と知識の研鑽に努めた。

（２）学術国際交流活動；

加盟したアジア小動物獣医師会（FASAVA）会議、および学術交流活動に積極的に参加した。

（３）日本獣医師会による講習会；

日本獣医師会と連携し、獣医公衆衛生分野に関する学術講習会を都市センターホテルにて（2/3）開催し、知識と技術の研鑽に努めた。

（４）東京都委託事業による講習会；

東京都委託の獣医師育成対策の一環とし、講習会を開催した。

日 時：平成 30 年 10 月 28 日（日）15:15～16:45 <90 分>

会 場：ホテルルポール麹町（東京都千代田区平河町2-4-3）

テーマ：「診療現場で陥りやすいトラブルとその対策」

講 師：フラクタル法律事務所 弁護士 田村勇人（たむら はやと）

弁護士 堀井亜生（ほりい あおい）

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師等 40 名

（５）東京都補助事業による講習会；

講習会名：獣医公衆衛生学術講習会

日 時：平成30年10月28日（日）13:00～15:00 <120分>

会 場：ホテルルポール麹町（東京都千代田区平河町2-4-3）

テ ー マ：「One Health, 共通感染症のコミュニケーターとしての獣医師」

講 師：池田 忠生（日仏獣医学会理事・日本パスツール協会元副会長）

参加人数：都内小動物診療施設の臨床獣医師等 42 名

（６）学術情報提供；

都委託獣医師育成事業による講習会及び獣医公衆衛生学術講習会の映像資料等を制作し、獣医師限定のサイト上に公開した。

（７）支部学術講習会；

支部が実施する学術講習会をもって、継続した生涯教育の充実と地域学術振興の活性化に努めていくこととした。

平成 30 年度実績は以下の通りである。※日獣生涯研修申請分

多摩東支部・多摩西支部 学術講習会 5/13（日）13：30～

「循環器アップデートセミナー」 講師：上地正実先生、千村収一先生
町田支部 学術講習会 6/3（日）13：30～

「循環器アップデートセミナー」 講師：上地正実先生、佐藤貴紀先生
北多摩支部 学術講習会 11/9（金）20：00～

「最新の動物用義肢装具」 講師：島田旭緒先生
北多摩支部 学術講習会 2/22（金）20：00～

「最新のアレルギー診療・正しい方法、間違った方法」 講師：増田健一先生
武蔵野三鷹支部 学術講習会 3/15（金）20：00～

「咳の鑑別」 講師：藤田道郎先生

13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

（1）東獣ホームページの充実；

関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして、ウェブサイトの開示、構築を図った。本年度は、より情報に到達しやすい HP とするため、ユーザーインターフェースの改訂を実施した。

（2）機関紙（東獣ジャーナル）の発行；

公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年4回の刊行と掲載情報の充実に努めた。

東京都委託事業、補助事業や本会委員会における成果物など学術情報を掲載して、知識の啓発に努めた。

また、時流に即した特集を企画し、デザインを大幅に変更するなどより読みやすい誌面とするように図った。

特集 No.587（2018.4）「夜は忙しい。夜間救急動物病院」

No.588（2018.7）「動物保護施設の世界 取材してわかった、世界の取組み」

No.589（2018.10）「そろそろ、コンプライアンス特集」

No.590（2019.1）「これからの時代に、これからの獣医師会を。」

14. 家畜衛生防疫対策事業

14-ア. 牛疾病検査円滑化推進対策事業（農水省補助）；

都内の牛飼養農場において死亡牛が発生した場合に、発生場所から化製場までの適切な管理・輸送と死亡牛の適切な処理に係る費用の助成を行い、東京都が行う死亡牛の牛海綿状脳症（BSE）検査の円滑な推進を図った。平成30年度実績は47頭、503,500

円の補助金を交付した。

14ーイ. 家畜生産農場清浄化支援対策事業（農水省補助）；

（１）疾病清浄化支援対策；

牛の慢性伝染病であるヨーネ病及び牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)による損耗防止とこれら疾病の清浄化を推進するため、東京都が行う検査により摘発されたヨーネ病発生農場の同居牛及び BVDV-PI 牛の自主とう汰を促進するため助成する事業である。本年度は、自主とう汰対象牛の摘発が無かったことから補助実績は無かった。

（２）疾病流行防止支援対策；

吸血昆虫媒介疾病である牛アカバネ病の予防のため、産業動物獣医師及び東京都酪農業協同組合の協力を得てアカバネ病ワクチン接種を計画的、組織的に実施した。本年度実績は、接種頭数 656 頭、補助金交付 83,968 円となった。

14ーウ. 東京都家畜衛生対策事業（東京都補助）；

（１）生産農場清浄化対策；

牛の慢性伝染病であるヨーネ病、牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)及び豚オーエスキー病による損耗防止とこれら疾病の清浄化を推進するため、東京都が行う検査により摘発されたヨーネ病発生農場の同居牛、BVDV-PI 牛及び豚オーエスキー病野外抗体陽性繁殖豚の自主とう汰を促進するため助成する事業である。本年度は、自主とう汰対象家畜の摘発が無かったことから補助実績は無かった。

（２）ワクチン接種の推進；

吸血昆虫媒介疾病である牛アカバネ病及び牛イバラキ病の予防のため、産業動物獣医師及び東京都酪農業協同組合の協力を得てアカバネ病及びイバラキ病ワクチン接種を計画的、組織的に実施した。また、生産性阻害要因となっている牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)等の牛のウイルス性感染症の発生予防のため、牛 6 種混合ワクチン接種料の一部助成を行った。本年度接種実績は、アカバネ病ワクチン 656 頭、イバラキ病ワクチン 600 頭、6 種混合ワクチン 712 頭であった。

14ーエ. 家畜防疫互助基金造成等支援事業（独立行政法人農畜産業振興機構補助）；

悪性家畜伝染病（口蹄疫、牛疫、牛肺疫、豚コレラ、アフリカ豚コレラ）の発生時に備え、発生農場の経営再建に必要な経費等を生産者が相互に支援する「家畜防疫互助基金」制度の生産者等への普及、啓発及び加入促進に努めた。本年度の契約申込は、乳用牛：31 戸、1,220 頭、肉用牛：5 戸、369 頭、豚：3 戸、896 頭であった。

14ーオ. 馬飼養衛生管理特別対策事業；（公益社団法人中央畜産会補助）

東京都内には、乗馬クラブ、大学馬術部、展示や愛玩用等、多様な飼養目的、飼養形態で多くの馬が飼養されている。一方、馬の生産、流通の国際化等の進展や東京オ

リンピック開催を控え、海外からの感染症の侵入、流行の危険性も大きい。防疫体制の脆弱な競走馬以外の馬の飼養衛生管理体制の総合的な整備を図る必要があることから、公益財団法人全国競馬・畜産振興会畜産振興事業の一環である本補助事業により以下の事業を実施し、馬の飼養衛生管理体制の強化・向上を図った。

(1) 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催

日 時：平成 30 年 11 月 22 日（水）15:40～16:40

会 場：大井競馬場事務所事務棟 第一会議室

主な協議事項：馬の飼養衛生・防疫対策関係事業について

H28/H29 馬獣医療実態調査結果報告及び H30/H31 馬獣医療実態調査について

馬飼養衛生管理技術地方講習会の今後のあり方について

馬の伝染性疾病防疫対策について

出席者：委員等 8 名

(2) 馬飼養衛生管理技術地方講習会の開催

日 時：平成 30 年 11 月 22 日（水）13:30～15:30

会 場：大井競馬場事務所事務棟 第一会議室

テーマ：「馬伝染病の発生状況と外傷治療について」

講 師：日本中央競馬会 馬事部防疫課 課長補佐 岡野 篤先生

参加者：東京都獣医師会勝島支部員、馬飼養者等 5 名、馬関係獣医師 7 名、その他 13 名、 計 25 名

(3) 地域馬獣医療実態調査の実施

アンケート形式による馬飼養者の飼養衛生管理状況等の実態調査の実施

調査対象：都内馬飼養施設 14 か所 有効回答数： 9 か所

14-カ. 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業；（公益社団法人中央畜産会補助）；

都内で飼養される競走馬以外の乗用馬等に対する馬インフルエンザワクチン接種を推進し、都内における馬インフルエンザに対する高い免疫力の確保、維持を図り、もって競馬、馬術競技等の円滑な開催及び馬事振興に資するため、馬ワクチン接種等地域推進対策検討会の開催（2 回）及び馬インフルエンザワクチン接種費助成事業を行った。H30 年度は、東京都家畜保健衛生所の協力を得て広く都内馬飼養者に事業案内パンフレット、実施要領を送付した結果、本年度補助対象計画頭数 30 頭を上回る 9 戸 65 頭の申込となったことから、予算配分を補正し全頭に補助を実施した。

14-キ. 家畜自衛防疫推進事業（公益社団法人中央畜産会補助）；

H30 年度は本補助事業を未採択とした。

衛生体制強化基金事業については、公益社団法人中央畜産会から本事業による事務所経費の一部助成を受けた。

15. 医療事故防止セミナー開催事業

都の委託を受けて小動物獣医療の地域への安定的な提供と人と動物のより良い共生社会の構築に寄与することを目的とし、講習会を開催した。昨年に続き獣医師及び従事者の事件を幅広く取り扱う弁護士を講師に招き、実際に起こった獣医療トラブルを例に挙げながら、防止策及び対処法を学んだ。講習会は2部構成で行われ、1部は獣医療トラブルの基礎知識に関する講演、2部はパネルディスカッションを行った。

都委託事業 平成30年度小動物獣医療向上対策講習会

日 時：平成30年10月28日（日）15:15～16:45 <90分>

会 場：ホテルルポール麹町（東京都千代田区平河町2-4-3）

テーマ：「診療現場で陥りやすいトラブルとその対策」

講 師：フラクタル法律事務所

弁護士 田村勇人・弁護士 堀井亜生

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師等 40名

また当日の講習内容をVTRにまとめ、本会HP上で公開して広く普及啓発を行った。

Ⅱ．収益事業及びその他の事業

（１）不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

（２）福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

- 1) 共済給付 ①弔慰金 19 件 ②傷病見舞金 8 名 24 回 ③災害見舞金 4 件
- 2) 旅行保険の加入 4 件
- 3) 無受給退会者への記念品贈呈 7 件

（３）入会促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努めた。また、本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を、関係各所に配布し、入会を促進した。

新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を交付するとともに、関係法令の遵守、獣医療倫理、獣医療過誤防止とインフォームドコンセントの徹底、適切なカルテの記述、適切な広告のあり方等を周知し、飼い主から信頼される質の高い適切な獣医療の体制の確保に努めた。

また、賛助会員 82 社の協力を得て、本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービスの提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と入居費用に係る割引の適用、病院ホームページ制作の割引料金の提供など、会員個人の生活や病院運営の一助となる様々な特典提供の他、支部旅行補償保険制度の紹介や、高齢会員の長寿を祝し、敬老の日に記念品の贈呈を行うなど、会員特典と福利厚生 of 充実に積極的に取り組んできた。

（４）その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

また、会員病院の名入れカレンダーを受注、販売した。

（５）事務委託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。